

平成28年度

島根大学教育学部附属学校園研究紀要

21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成

～ 保育・各教科等における資質・能力の育成 ～

島根大学教育学部附属学校園

はじめに

島根大学教育学部附属学校部長 藤田英樹

平成28年度から国立大学法人は第3期中期目標計画期間に入りました。島根大学教育学部では、附属学校における第3期中期目標を以下のように掲げました。

「地域課題や社会的ニーズに合わせ、附属学校の機能強化を図る。」

「21世紀を生き抜く力を備えた人材を育成する新たな教育・研究活動を推進し、地域の教育力向上に貢献するためにその成果を発信する。」

「これからの教員養成に資する学部の新たな教員養成機能、及び教職大学院での現職教員教育の一翼を担い高度な教育実践力を有する教師及び山陰両県におけるスクールリーダーを育成する。」

これらの目標は本附属学校園の今後の方針を示すものです。

教員養成学部や附属学校を取り巻く状況は厳しさを増しており、文部科学省は28年9月に国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議を設置して教員養成のあり方や附属学校の見直しについて検討をはじめました。29年の秋頃には改革の方向性が示されるようです。

附属学校は、実験的先導的な学校教育、教育実習の実施、大学学部における教育に関する研究への協力などを設立の趣旨としています。附属学校のあり方がこれまで数々議論されてきた背景には、これらの設立の趣旨に附属学校が十分に答えていないのではないかとという全国的な課題があったからです。

島根大学教育学部では平成16年の法人化を機に教員養成学部への特化をはじめ、附属学校での学部1年生から4年生までの教育実習の実施や、学部教員と共同した研究体制の整備など、附属学校との密な連携体制を構築し一定の成果を挙げてきました。しかしながら、現在のこのような附属学校を取り巻く状況を鑑み、これまで以上に島根大学教育学部附属学校の存在意義を明確にし、地域に必要とされる附属学校になることが求められていると考えています。

附属学校の第3期中期目標にはこのような趣旨が込められており、地域に貢献する附属学校を目指し、山陰地域の未来を担う人材の育成、地域密着型の研究開発、教員研修機能の拡充等に取り組み、附属学校の研究成果がモデル校として地域の教育に活用されるよう発信していきたいと考えております。今後とも本附属学校園へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

目 次

研究総論	1
------	---

保育・教科等の取組

保 育	遊びこむ子どもを育てる	7
国 語	思考する価値を感じる国語科学習	20
社 会	問題解決能力の育成を目指す社会科学習 － 社会生活を豊かにする「問い」の創造と探求する力の育成 －	33
算 数 数 学	子どもの豊かな算数・数学観を育む算数・数学学習	46
理 科	学んだことをいかして豊かに社会・世界と関わる資質・能力を培う理科学習	59
生 活 科	願いをもって対象と関わり、気付きを広げ深めながら、くらしを豊かにする生活科学習	72
音 楽	音や音楽に対する感性を高め、よりよい音楽表現を追求する音楽科学習	80
図画工作 美 術	確かな願いをもち、創造力を育む図画工作・美術科学習 － 思考の多様性の中で感性豊かな表現を追求する －	93
体 育 保健体育	運動の心地よさを味わい、技能を高めるための「わかる」を追求していく 体育・保健体育学習	101
技 術 家 庭 科	よりよい生活・社会を目指して工夫し創造する技術・家庭科学習 － 課題を多面的にとらえ、身に付けた知識や技能を活用する力の育成を通して －	114
外国語活動 英 語	自分のもっている力を駆使してコミュニケーションを図る子どもの育成	127

おわりに

戦後最も大きな改革になると言われています。次期学習指導要領の改訂が目前に迫ってきました。文部科学省からは、平成27年8月に「論点整理」がまとめられ、翌年の平成28年8月には「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」がだされ、改訂の基本方針が示されました。そして、今年（平成29年）2月14日、幼稚園教育要領、小・中学校の学習指導要領の改定案が公表されました。周知期間、移行期間を経て、小学校は平成32年度、中学校は33年度から全面实施されます。

小学校の高学年に外国語科を導入し、小・中・高で英語教育の系統化を進めることとなります。また、各教科などを通じて育てたい資質・能力を明確にし、その定着のために「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。今回の改訂は、授業改善を重視したことが特徴といえます。児童・生徒に身につけさせたい資質・能力を基に「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で各教科などの内容が整理されています。

これからの複雑で予測できないような社会を生き抜くために新しい知、価値を創造する教育が必要になり、育成すべき資質・能力を身につけることが求められています。そして、その資質・能力を身につけるために、「どのように学ぶか」ということで「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善が求められています。「何を学ぶのか」ということから、「どのように学ぶのか」ということがより一層求められるようになります。

こうした中、これまでの研究の成果を踏まえ、本学校園は「21世紀を生き抜くための資質・能力を備えた子どもの育成」を研究主題に、保育・各教科等の視点から学校園の子どもたちに身につけさせたい資質・能力をとらえ直しました。幼・小・中の全教員の願いや思いが込められた資質・能力を作成し、共通認識の基に実践研究に取り組むことができました。その成果として、この研究紀要をまとめました。

私たちの情報発信が、これからの時代を生きる子どもたちに必要とされる資質・能力を育成するための具体になっているのか、次期学習指導要領の方向を示しているのか、子どもたちがもっと学んでみたい、追究してみたいという授業になっているのかが問われていると思っています。

今後、私たちは本年度の研究の成果をもとに、前述しました次期学習指導要領の改訂に向けて求められている、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を育む実践研究を、さらに深めていきたいと思えます。

最後になりましたが、本附属学校園の実践研究に対しまして、県・市教育委員会関係者の先生方には、懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました。心より厚くお礼申し上げます。今後とも、本附属学校園の実践研究に対しまして、多くの先生方の暖かいご理解とご批正をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成29年3月

学校園長 齋藤 英明

◆ 平成28年度 共同研究同人（附属学校園教職員並びに教育学部共同研究者） ◆

島根大学教育学部附属学校長 藤田 英樹
 島根大学教育学部附属学校園長 齋藤 英明
 島根大学教育学部附属中学校副校長 樽田 真治
 島根大学教育学部附属小学校副校長 小林 敏朗
 島根大学教育学部附属幼稚園副園長 伊藤 英俊

【保育】

[幼] ○金崎沙耶香 太田 泉 福光 裕子
 石塚のり子 高井 優加 加納 美紀
 根本 美幸 小松原知子
 [学] 野津 道代 川路 澄人

【国語】

[小] 恩田 一穂 原 平
 [中] 永野 信吾 ○籠橋 剛 鳥屋尾慎人
 [学] 田中 耕司 富安 慎吾

【社会】

[小] 和田 律央 大坂 慎也 ○藤原 良平
 [中] 岡田 昭彦 前島美佐江 中尾 文
 [学] 加藤 寿朗

【算数・数学】

[小] 徳永 勝俊 ○南 晃子 鶴原 渡
 [中] 安野 洋 大谷 由香 中林 千春
 [学] 御園 真史

【理科】

[小] 釜田美紗子 関野 淳也
 [中] ○野崎 朝之 大山 朋江 園山 裕之
 [学] 栢野 彰秀 松本 一郎 辻本 彰
 塚田 真也

【生活】

[小] ○大坂 慎也 釜田美紗子 和田 律央
 [学] 高塚 寛

【音楽】

[小] 能海 麗美 上代 美樹
 [中] ○小村 聡 椎木 千鶴
 [学] 河添 達也

【図画工作・美術】

[小] ○三桐 摂夫
 [中] 加藤 舞 江角 哲弥
 [学] 有田 洋子

【体育・保健体育】

[小] ○三島 康紀 岡 久美子
 [中] 藤田 壮志 濱崎可央里 片寄翔一郎
 [学] 廣兼 志保 西村 覚 久保 研二

【技術・家庭】

[小] ○竹吉 昭人
 [中] 青木 佳美 後藤康太郎
 [学] 橋爪 一治(技) 正岡 さち(家)
 鶴永 陽子(家)

【外国語活動・英語】

[小] 加藤 君江 原 沙耶香
 [中] ○鎌田真由美 岩崎 香織 嵐谷 恭子
 [学] 縄田 裕幸 大谷みどり 猫田 英伸

【学習生活支援研究センター】

宮崎 紀雅 高木 潤 三浦 睦美
 廣田 由佳

【養護】

[幼] 小松原知子
 [小] 中井 優江
 [中] 深田 沙織

○：主任 [幼]：幼稚園 [小]：小学校 [中]：中学校 [学]：教育学部共同研究者

平成29年11月 印 刷

平成29年11月 発 行

発 行 島根大学教育学部附属学校園

島根大学教育学部附属幼稚園 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属小学校 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属中学校 〒690-0824 松江市菅田町167-1

附属学校園 <http://www.shimane-fuzoku.ed.jp/>

印 刷 (有)木次印刷

〒699-1312 雲南市木次町山方630-5
